

研究報告書資料編

特別研修員 磯貝博昭 (安中市立東横野小学校)

題材名(単元名)

私たちの生活と工業生産(工業地域と工業生産)

考察

1 教材観 2 子供の実態 3 単元の系統性 略(研究報告書参照)

指導目標と評価規準

略(研究報告書参照)

指導方針

毎時間ごとに、自己や相互の学習を振り返る評価カードである「チェックカード」に記入することで、学習の進行状況や参考になったことを確認できるようにする。

資料を調べる前に、「学び方ガイド(1)」を活用し、調べ学習の手順を確認できるようにする。

課題に対する記事を書くにあたって、1つの資料のまるうつしにならないように、複数の資料を調べて、それらの共通部分や一つの資料独自の部分を吟味するように働きかける。

調べていく上で出てくる、意味のわからない言葉については、可能な限り追究するようにする。また、追究した結果がまとめやすいような、ワークシートの工夫を図る。

適切な資料をなかなか見つけられない子供に対しては、意図的に資料を選択できる場を教室と図書室に設定する。

図書室の司書教諭と連携し、子供の資料集めが支援できるようにする。

新聞の同じテーマのグループ内で、収集から読み取ったことを発表し合う時間を十分確保することで、資料からの読み取りがより整理しやすくなるようにする。

資料から読み取ったことを整理しやすいように、複数の資料の共通部分や一つの資料独自の部分にそれぞれ色を変えた蛍光ペンで下線を引かせるようにする。

資料どうしの共通部分をまとめる前に、モデルとして参考にできるよう、教師が同題材の中で設定したテーマに基づいて収集した資料から、読み取ったことや読み取ったことの共通部分やその共通部分から考えられることを拡大掲示しながら説明する。

新聞記事を何度でも書き直しができ、また以前書いたものが残るようなワークシートの工夫を図る。

自分の考えをまとめやすいように、資料どうしの共通部分や資料独自の部分を整理し大きな付箋に書いてそれをワークシート上で操作できるようにする。

新聞の異なるテーマのグループ内で、お互いの仮の新聞を読み合ったり、発表し合ったりする時間を十分確保することで、知識の共有化を図らせるようにする。

発表を通して異テーマの他者の新聞を参考にすることで、自分の新聞の記事や図表、見出し、紙面構成をもう一度考え、修正して、新聞を完成するよう働きかける。

指導計画(全13時間予定)

…評価規準「十分満足できる状況」

…評価規準「おおむね満足できる状況」

評価方法については【 】内に記述する。

過程	時間	学習活動	学習形態	教師の主な支援及び指導上の留意点	評価規準・評価方法
気づく・見通す	2	<ul style="list-style-type: none"> 日本の工業のさかんな地域やそこでさかんな工業の種類、特色ある中小工場の存在について概観し、日本の工業について調べる視点をもつ。 <p>1 / 2</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 日本の工業地帯・地域の位置を確認し、太平洋側の海沿いに多く分布することに気づくことができるようにする。 過去や現在の日本の工業製品の生産量を表すグラフなどを読み取り、第二次世界大戦前からの日本の工業の変遷について関心をもたせられるよう働きかける。 日本工業を支える中小工場の存在について着目させ、興味を持つよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 工業地帯・工業地域の名前と位置を地図帳を使い、自ら確認できる。 工業地帯・工業地域の名前と位置を確認できる。 <p>【観察・白地図】</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 自分が興味をもった社会的事象から新聞のテーマを設定する。 <p>2 / 2</p>	個人	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料を通じて興味をもったことや調べたいという意欲をもったことから、個々の新聞のテーマの設定を促す。以下が設定する三つのテーマである。 <p>A 太平洋ベルト B 日本工業の変化 C 大工場と中小工場</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分が関心をもった内容から、新聞のテーマを設定し、調べる視点をもつことができる。 自分の新聞のテーマを設定できる。 <p>【観察・チェックカード】</p>
つかむ	4	<ul style="list-style-type: none"> 新聞づくりの目標をもつ。 調べ学習のもととなる複数の資料の収集を始める。 <p>1 / 4</p>	一斉 個人	<ul style="list-style-type: none"> 「学び方ガイド(1)」を活用し、新聞作りを進める上での方法や手順を学べるように働きかける。 新聞作りに必要な資料が選択できた子供には、自分が調べた内容をファイル化するようにする。また、ファイル化しやすくように、収集した資料はコピーをとり、貼らせられるようにワークシートを工夫する。 適切な資料をなかなか見つけられない子供に対しては、意図的に資料を選択できる場を教室と図書室に設定する。また、特に見つけることに苦勞する子供に対しては、授業時以外に個別支援をするようにする。 収集した資料が、そのまま新聞に使われることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習の手順を確認し、新聞作りの目標を、具体的に持つことができる。 新聞作りの目標をもつことができる。 <p>【観察・チェックカード】</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習のもととなる複数の資料の収集を始める。 収集した資料から、読み取れることを整理する。また、それぞれの資料中の意味のわからない語句を調べる。 <p>2・3 / 4</p>	個人	<ul style="list-style-type: none"> 資料からどんなことを読み取るのかを、教師自身のまとめたものでコンピュータの画面に提示し、参考するように働きかける。 調べている過程で出てくるであろう別の難しい語句については、可能な限りその意味を追究するよう働きかける。また、追究した結果が整理しやすいようなワークシートを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞作りに必要な資料を教科書や資料集から選ぶことができる。 新聞作りを行うための資料収集に意欲をもって取り組める。 資料から読み取れることを書き出し、わかりやすい文章に整理できる。 資料から読み取れることを書き出すことができる。 <p>【観察・ワークシート】</p>

つかむ	<p>・同じテーマどうして、資料から読み取ったことを発表し合い、交流しあう。 4 / 4</p>	<p>グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞のテーマごとに、8～9人の3つの班を編成する。 ・どんな資料を集めたのか、集めた資料から読み取ったことはどんなことを口頭で発表をし、交流が図れるようにする。 ・交流後、自分の収集した資料から読み取った内容を修正し、整理するようにする。 	<p>発表を参考に、自分の資料とそこから読み取れることを整理できる。</p> <p>友達の発表から、自分の資料を再収集しようとする。</p> <p>【観察・ワークシート・チェックカード】</p>
深める 4	<p>・調べた複数の資料を見比べ、それぞれの共通部分と独自の部分を調べる。 1 / 4</p>	<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の考えをまとめやすいように、資料どうしに共通していること、一つの資料だけで言えることを整理しやすいように、蛍光ペンを使って下線を引くように働きかける。 	<p>収集した複数の資料から読み取れることを吟味し、「資料どうしから共通して言えること」、「一つの資料独自のことに理由を考えて弁別することができる。複数の資料から「共通して言えること」、「一つの資料独自のことに弁別できる。」</p> <p>【観察・ワークシート】</p>
	<p>・調べた複数の資料からいえることの共通点を読み取らせ、なぜそういう事象がいえるようになったのかの理由を考える。 2 / 4</p>	<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師自身も本題材に関連するように、「日本の自動車工業の発達」というテーマを設定し、その内容について集めた資料どうしの共通部分やそこから考えられることをまとめたものを拡大掲示、あるいは板書し、児童の思考の参考となるように働きかける。 ・それぞれの新聞のテーマについて、資料から読み取れることの共通部分と、そういう事象になったと考えられる理由は、以下の通りである。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>…資料と資料からの共通部分。 …共通部分から考えられること、理由。 …その他に気づいてほしいこと。</p> </div> <p>A 太平洋ベルト</p> <p>太平洋ベルト地帯には、人口・建物・交通網・工業施設が集まっている。</p> <p>太平洋側の海岸沿いに工業が発達しているのは、外国から原材料や燃料を船で運んでくるのに便利だし、工場ですべての製品を輸出するのに便利だから。</p> <p>海沿いは埋め立て地により、住宅や工業施設が立つ広い敷地が手に入りやすかった。</p> <p>工場が立つ条件の一つとして、国内の交通輸送が便利なところ、その工場働く労働者が多い都市が近いことである。</p> <p>B 日本工業の変化</p> <p>戦前から、戦後のすぐは日本は軽工業が中心だったが、やがて機械工業を主とした重工業中心へと変わっていった。</p> <p>日本の工業は、戦前・戦後直後から高度成長長期に時代が移る中で、貿易で国</p>	<p>教師の発表を聞いて、複数の資料の共通部分を文章にまとめることができる。</p> <p>教師の発表を聞いて、複数の資料の共通部分を文章にまとめようとしている。</p> <p>【観察・付箋・ビデオ】</p> <p>付箋に書かれた共通部分について、「なぜそう言えるのか」、あるいは「その事象から言えることは何か」を推測し、自分の新聞のテーマに関する自分の考えをまとめることができる。</p> <p>付箋に書かれた共通部分について、「なぜそう言えるのか」あるいは「その事象から言えることは何か」を推測しようとする。</p> <p>【観察・台紙・ビデオ】</p>

		<p>を豊かにするために、より高く売れる製品を作るようになった。</p> <p>日本はもともといろいろな原料に乏しく、それらを輸入することで加工貿易を行ってきた。</p> <p>労働者の数が減ってきているのは、現在の日本の不況が原因だと思われる。</p> <p>C 大工場と中小工場</p> <p>大工場よりも中小工場は、その数や働いている人の数は多い。</p> <p>中小工場よりも大工場のほうが、生産額や従業員への賃金は多い。</p> <p>中小工場には、他にはない独自で精密な専門技術を駆使しながら活躍している工場が多い。大工場を支えているのは、中小工場である。</p> <p>たくさん人が働いていて、設備もよい大工場のほうが利益は上がる。</p> <p>中小工場や大工場で作られる様々な工業製品が、国民の生活を支えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通部分は用意された大きな付箋に書くようにする。また、何回でも書き直しできるように付箋は十分用意する。 ・共通部分の付箋が貼られ、その事象から言えることを追究した思考の成果が、より多くの児童と共有できるように大きな台紙の上で考えさせる。また、授業後はその台紙を教室掲示する。 ・共通部分がなかなか言葉としてまとめられない子供に対しては、どの資料とどの資料が共通しているかを選ばせることから個別支援する。 ・事象の特色や関連性が考えられた子供は、新聞記事の清書に取りかかるようにする。 	
	<p>・新聞のテーマに対する自分の考えを文章で表す。 3 / 4</p>	<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取れたことと自分の考えの清書は新聞の用紙に直接書くのではなく、専用のワークシートを用意する。そのワークシート上に清書したものを切り取って、新聞に貼り付けることを指示する。 ・記事の中で、「資料を調べた部分」と「自分の考えの部分」の量的なバランスを意識し、清書の段階では文字の大きさも考えることを促す。 	<p>資料の共通部分から推測し、資料から読み取れることと自分の考えを分けて、文章にまとめることができる。</p> <p>資料の共通部分から推測し、自分の考えを文章にまとめることができる。</p> <p>【観察・付箋・台紙・ワークシート】</p>
	<p>・できあがった記事と資料を取り入れて、仮の新聞を作成する。 4 / 4</p>	<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用意した記事や資料は紙面構成を考えさせてから、新聞に貼り付けることを指示する。 ・新聞記事の説明・補助となる資料は、読み手に伝わりやすいようにカラーコピーやカラー印刷したものを事前に用意する。 ・仮の新聞が完成するように、資料や記事の配置や見出しを考えさせるようにする。 ・新聞タイトルは、前時までの学習を生かして、自由に考えさせるようにする。 <p>例 日本の工業を支える中小工業 等</p>	<p>新聞名・見出しを考え、図や表、グラフの紙面構成を考えて、仮の新聞にまとめることができる。</p> <p>新聞名・見出しを考え、図や表、グラフを取り入れて、仮の新聞にまとめることができる。</p> <p>【観察・仮の新聞】</p>
<p>ま と め る</p>	<p>・できあがった仮の新聞をもとに、班内で発表できるように準備する。 1 / 2</p>	<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の前に、あらかじめ他の子供の新聞をよく読ませ、疑問点や感想を整理させた上で、発表を聞くことができるようにする。 ・発表に際し、資料から読み取った事実だけでなく、「調べたことから自分で考えたこと」 	<p>資料からの事実と自分で考えたことを意識して、発表の準備することができる。</p> <p>わかりやすい発表ができるように準備しようとしている。</p>

ま と め る		グループ	を必ず内容に入れることを働きかける。 ・仮の新聞をグループ内で紹介・発表し合うことで、グループの中での知識の共有化を図るとともに、他の子供の見出しや・紙面構成の工夫を参考にするように働きかける。 ・他の子供の新聞の良さから気づいた中で、自分の新聞に具体的に取り入れていくことを考えるように働きかける。	【観察・発表用原稿】 発表し合うことで、他の子供の新聞の良さに気づき、自分の新聞に取り入れることを意識できる。 発表し合うことで、他の子供の新聞の良さに気づくことができる。 【発表・観察・チェックカード】
	1	個人	・新聞の修正をする前に、前段階での他の子供の発表から参考になったことを整理するように働きかける。	自分の伝えたい内容が最も強調された内容に修正・整理された新聞を完成することができる。 参考になったことをふまえて、記事の内容や見出し、紙面構成を再考し、新聞を完成することができる。 【観察・新聞】

各時間の指導計画

評価に関する記号の詳細な説明は以下の通りである。

...評価規準「十分満足できる状況」	...評価規準「おおむね満足できる状況」	評価方法については【 】内に記述する。
みとりのポイント	「十分満足できる」と判断した見取りのポイント..A	「おおむね満足できる」と判断した見取りのポイント..B
みとり後の教師の支援	「努力を要する」状況にある子供への支援...	「おおむね満足できる」状況にある子供への支援...

第1時

(1)ねらい

日本の工業のさかんな地域やそこでさかんな工業の種類、特色ある中小工場の存在等について概観し、日本の工業について新聞作りをするための調べる視点をもつことができる。

(2)展開

学 習 活 動	時間	主な発問（*）と指導上の留意点（ ）	評価規準・評価方法・みとりのポイント等
1 本単元の学習内容を 知る。	2	1つの単元を通じて、調べ学習を行い、新聞を作成することを伝える。	
2 教科書P78の 分布図を眺めて、 工業の盛んな地域 を考え、ワークシ ートの白地図に書 き込む。	18	* 主な工業地帯や工業地域はどこにあるだろうか。 四大工業地帯と五つの工業地域について位置と名前を確認し太平洋側の海沿いに多く分布することに気づくことができるようにする。 * 確認した九つの地帯・地域について、ワークシートの白地図に書き込もう。 「工業地帯」と「工業地域」の言葉の意味の違いを確認するようにする。 * 分布図の「主な生産額を示すグラフ」からどんなことに気づくか。 生産額の多い「京浜」「阪神」「中京」の工業地帯が、機械工業のしめる割合が多いことに気づくようにする。	工業地帯・工業地域の名前と位置を地図帳を使い、自ら確認できる。 A ワークシートの白地図に地図帳を使い自ら調べて、工業地帯・工業地域の名前を書き込むことができる。 工業地帯・工業地域の名前と位置を確認できる。 B ワークシートの白地図に工業地帯・工業地域の名前を書き込むことができる。 【観察・白地図】 教科書P78の分布図と地図帳を見比べさせ、一つ一つの工業地帯・工業地
3 教科書P83の		* グラフから、どんなことに気づきますか。教科書の「まなび	

帯グラフを見て、気づいたことをまとめて、発表する。	10	方コーナー」を読んでから、発表しよう。 過去や現在の日本の工業製品の生産量を表すグラフなどを読み取り、第二次世界大戦前からの日本の工業の変化について関心をもてるように働きかける。 「機械」「金属」「化学」「せんい」「食料品」の各工業がどんなものをつくっているのかを確認するように働きかける。	域の名前と位置を確認して、ワークシートに書き込むようにする。 書き込むことができたことを賞賛し、自信を持って発表できるようにする。
4 教科書 P 84・85 を読む。	10	日本工業を支える中小工場の存在に着目させ、興味をもつように働きかける。 前単元「自動車をつくる工業」の学習を振り返り、中小工場が車を組み立てる大工場にとって、欠かすことのできない重要な存在であったことを思い出せるようにする。	
5 本時のまとめをする。	5	本時で学習した内容で、興味をもった内容についてチェックカードに記入する。 次時に自分の新聞のテーマを決定することを知らせる。	

第2時

(1)ねらい

自分が興味をもった事象から新聞のテーマを設定することができる。

(2)展開

学 習 活 動	時間	主な発問（*）と指導上の留意点（ ）	評価規準・評価方法・みとりのポイント等
1 本時の学習内容を知る。	2	前時の内容を振り返りながら、新聞のテーマを決定することを知らせる。	
2 前時の学習を振り返りながら、本単元の内容を三つにグルーピングする。	25	前時の学習内容を思いだし、どのような内容であったか発言するように促す。 工業の盛んな地域が太平洋の海沿いに多いことを確認する。 * 地図帳や資料集を使って、太平洋の海沿いが、どのような地域なのかを考えよう。 調べ方で戸惑う子供には、地形図・人口分布図・交通網図を補助として準備し、プロジェクターで投影して、助言する。 * 太平洋ベルト以外に、日本の工業の特色を考えてみよう。 「昔はせんい工業が盛んだったが、今は機械工業が盛んである」といった日本の工業の変化について、確認できるようにする。また、中小工場の存在についても確認できるようにする。 発表した内容を、大まかに三つの内容にグルーピングする。 新聞のテーマについてはグルーピングした以下の三つのテーマになるように設定する。 A 太平洋ベルト B 日本工業の変化 C 大工場と中小工場	自分の関心をもった内容から、新聞のテーマを設定し、調べる視点をもつことができる。 A 新聞のテーマを設定し、その決定した理由も具体的に、チェックカードに書くことができる。 自分の新聞のテーマを設定できる。 B 新聞のテーマは設定できる。（設定した理由が、具体的に書いてはいない。） 【観察・チェックカード】 教科書にある三つのテーマに関わる図やグラフを見て、どれが読みとりやすかったり、内容が分かりやすいかを判断させて、テーマを選べるようにする。 テーマを決められたことを賞賛し、意欲をもって、これからの調べ学習に取り組めるようにする。
3 自分が興味をもった事象から新聞のテーマを設定する。	15	テーマを決定した理由をチェックカードに記入する。 それぞれのテーマの人数が、ほぼ均等になるように働きかける。 友人関係ではなく、自分の調べたいと思う意欲を大切にしよう言葉かけをする。	

		早くテーマが決まったものは、「学び方ガイド(1)」を読むように働きかける。
4 本時のまとめをし、次時の予告を聞く。	3	「学び方ガイド(1)」、「学び方ガイド(2)」を配り、読んでおくことを伝える。 次時から調べ学習に入ることを知らせる。

第3時

(1)ねらい

調べ学習の進め方がわかり、新聞作りの目標をもつことができる。

(2)展開

学 習 活 動	時間	主な発問(＊)と指導上の留意点()	評価規準・評価方法・みどりのポイント等
1 自分の新聞のテーマを確認する。	2	新聞のテーマを変えたいものがあれば、本人の意欲を大切に して、変更も可とすることを伝える。	調べ学習の手順を確認し、新聞作りの 目標を、具体的にもつことができるか。
2 「学び方ガイド(1)」を読みすすめながら、資料の収集の仕方や資料から読み取ったことのまとめ方について確認をする。	20	* 「学び方ガイド(1)」を読んで、新聞作りの目標をたてよう。 「学び方ガイド(1)」を活用し、新聞作りを進める上での方法 や手順を学べるように働きかける。 * 自分が何から始めたらよいのか、わかりましたか。 いきなり、図書室やコンピューター室に出向くのではなく、 まず教科書を中心に資料を収集するように働きかける。 資料は、最低三つ以上は見つけることを確認する。 収集した資料を貼っておけるように「新聞作りのための資料プ リント」というワークシートの数は十分に用意する。	A チェックカードに、「考える」という意 味の言葉を含んだ新聞作りの目標を書 くことができる。 新聞作りの目標をもつことができるか。 B チェックカードに、新聞作りに対して 意欲的な目標を書くことができる。 【観察・チェックカード】
3 新聞作りについて、自分の目標を書く。	10	チェックカードに新聞作りの目標を具体的な言葉で書くよう に働きかける。 目標が立てられた子供から、資料収集を始めることを知らせ る。	もう一度「学び方ガイド(1)」を読み、 今回の新聞作りは何が大切なことな のかを意識させて、新聞作りの目標が が立てられるようにする。 意欲的な部分を賞賛し、もう一度「学 び方ガイド(1)」を読み、今回の新聞作 りは何が大切なことなのかを意識す るように働きかける。
4 資料の収集を始める。	13	なかなか新聞の目標を具体的に書けない子供に対しては、個 別支援を働きかける。	

第4・5時

(1)ねらい

新聞作りのための複数の資料を集めることができる。

収集した資料から、その内容を読み取ることができる。

(2)展開

学 習 活 動	時間	主な発問(＊)と指導上の留意点()	評価規準・評価方法・みどりのポイント等
1 自分のテーマを確認し、本時と次時の予定を聞く。	5	教師の発表を聞いた後、資料を探し集め、集めた資料の内容 を読み取ってワークシート上にまとめることを伝える。	新聞作りに必要な資料を教科書や資料 集から選ぶことができる。
2 教師の発表を聞く。	10	「資料からどんな内容を読み取るのか」について教師自身の まとめたものをコンピュータの画面に提示し、参考にするよ う働きかける。	A 自分の判断で、適切な資料を教科書や 資料集、図書室の図鑑から選ぶこと ができる。 新聞作りを行うための資料収集に意欲 をもって取り組める。
3 調べるための資料を収集する。		* 新聞を書くための資料を集めよう。 調べている過程で出てくるであろう別の難しい語句について	B 友人や教師に相談しながら、適切な資 料を教科書や資料集、図書室の図鑑か
4 収集した資料か		は、可能な限りその意味を追究するよう働きかける。また、	

<p>ら、読み取れることをワークシート上に整理する。</p> <p>5 それぞれの資料に出てくる意味のわからない語句について調べ</p>	<p>その追究した結果が整理しやすいようなワークシートを工夫する。</p> <p>それぞれの新聞のテーマについて集めた資料から読み取ってほしいことは、以下の通りである。</p> <p>A 太平洋ベルト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋ベルト地帯は海沿いであり、多くの工業地帯や工業地域があり、工業が発達している。 ・太平洋ベルト地帯は、人口が集中して日本を代表する大都市が多い。 ・太平洋ベルト地帯には、輸送に便利な高速道路や鉄道などの交通網が整備されている。 <p>B 日本工業の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「生産額の割合」の帯グラフから見て、戦前から戦後10年ぐらいは、せんいや食料品工業などの軽工業が中心だったが、それ以後は、機械・金属・化学などの重工業が中心となってきた。 ・教科書「働く人の割合」のグラフから見ても、軽工業から重工業に従事する人が増えてきている。ただし、平成時代になってからは、労働者の数は減ってきている。 ・日本はもともと山地が多く、少ない平地や海を埋め立てや干拓して平地を増やし、工業用地を増やしてきた。 <p>C 大工場と中小工場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の工場における割合は、圧倒的に中小工場の数のほう大工場より多い。 ・工場で働く人の割合も大工場よりも中小工場働く人の方が多い。 ・30年前では、大工場よりも中小工場での労働時間が多かったが、現在ではほぼ同じである。 ・大工場で働いた方が中小工場働くよりも1か月の賃金は多い。 <p>新聞作りに必要な資料が選択できた子供には、自分が調べた内容をファイル化するようにする。また、ファイル化しやすいように、収集した資料はコピーをとって、はらせられるようにワークシートを工夫する。</p> <p>適切な資料をなかなか見つけれない子供に対しては、意図的に資料を選択できる場を教室と図書室に設定する。また、特に見つけることに苦労する子供に対しては、授業時以外に個別支援をするようにする。</p> <p>資料の読み取りができた子供には、「学び方ガイド(2)」を読ませ、次時の同テーマでのグループ内発表に向けて、原稿を書くように促す。</p>	<p>ら選ぶことができる。</p> <p>【観察・ワークシート】</p> <p>新聞のテーマに関連する教科書のページをもう一度読み返させ、内容に関わる資料は教科書の中のどれか、探すように働きかける。</p> <p>資料が集められたことを賞賛し、次の内容の読み取りについては、できる限り自分一人で取り組めるよう意欲づけを働きかける、</p> <p>資料から読み取れることを書き出し、わかりやすい文章に整理できる。</p> <p>A 各資料から読み取れることを、ワークシート上に整理して、文として書くことができる。</p> <p>資料から読み取れることを書き出すことができる。</p> <p>B 各資料から読み取れることを、書き出すことができる。(文にならずに、単語をつなげてあるものでも良い。)</p> <p>【観察・ワークシート】</p> <p>各資料の数値を読み取らせたり、大きく変化していることに着目させたりして、それぞれの資料からどんなことがわかるのかをまず話して表現できるようにする。次にそれを、文として表せるようにする。</p> <p>読み取れたことがワークシートに書き出せていることを賞賛し、それぞれを一つの文としてまとめられるようにする。</p>
<p>6 2時間分のまとめをする。</p>	<p>5</p> <p>ほしいけれど見つからなかった資料があったら、チェックカードに、具体的に書くように促す。</p> <p>資料の読み取りと発表の準備が十分でない子供には、次時ま</p>	

	で準備をしておくことを伝える。	
--	-----------------	--

第6時

(1)ねらい

同テーマのグループを作り、グループ内で資料から読み取ったことを発表し合い、読み取ったことを整理し、理解することができる。

(2)展開

学 習 活 動	時間	主な発問（*）と指導上の留意点（ ）	評価規準・評価方法・みどりのポイント等
1 本時の学習内容を知る。	2	発表用の原稿が、各自作成できているかを確認する。 *調べたことの発表会をしよう。原稿は完成していますか。 自分の発表だけでなく、他の子供の発表を聞いて参考にできることはチェックカード'に書き込むよう働きかける。	発表を参考に、自分の資料とそこから読み取れることを整理し、理解できる。 A 他の子供の発表を参考に、資料から読み取った内容を修正・整理することができる。
2 同テーマのグループで、発表し合う。	30	新聞のテーマごとに、8～9人の3つの班を編成し、発表の順番を決めるようにする。 どんな資料を集めたのか、集めた資料から読みとったことはどんなことかを口頭で発表させ、交流が図れるようにする。 発表は、一人3分程度とする。発表時は、資料を貼り付けたワークシートが班員に見やすいように持たせるようにする。	友達の発表から、自分の資料を再収集しようとする。 B 他の子供の発表を参考に、資料そのものや資料から読み取れる内容を増やすことができる。
3 自分の読み取ったことを修正する。	10	発表後、他の子供の発表を参考に自分の収集した資料やそこから読み取った内容を修正し、整理するようにする。 発表を聞いて、自分にも必要だと思われた資料については、次時まで収集しておくようにする。 時間が足りなくて、読み取った内容の修正が終わらない者は、次時まで整理しておくことを伝える。	【観察・ワークシート・チェックカード】 同じ班内の者にワークシートを借り、その内容を書き写すように働きかける。 読み取れた内容が増えたことを賞賛し、ワークシート上に丁寧に整理できるようにする。
4 本時のまとめをする。	3	同テーマのグループ内で発表し合ったことについて、チェックカードに記入するようにする。	

第7時

(1)ねらい

調べた複数の資料を見比べ、それぞれの「共通部分」と「一つの資料独自の部分」を確認することができる。

(2)展開

学 習 活 動	時間	主な発問（*）と指導上の留意点（ ）	評価規準・評価方法・みどりのポイント等
1 本時の学習内容を知る。	2	始めにワークシートを再整理し、その後に読み取った内容の吟味をすることを知らせる。	収集した複数の資料から読み取れることを吟味し、「資料どうしから共通して言えること」、「一つの資料独自のこと」に理由を考えて弁別することができる。
2 ワークシートを再整理する。	16	読み取った内容を前時までで修正したものを、新しいワークシートに丁寧に清書するようにする。ワークシートには、今までの白黒の資料に替わって、新たにカラー印刷したものを貼るようにする。 整理できたワークシートを、用意されたA3の台紙の上部に見やすいように横一線に並べて貼り付けるようにする。	A 弁別した理由をチェックカードに書いて、「共通部分」「資料独自の部分」に下線を引くことができる。 複数の資料から「共通していること」、
3 調べた複数の資料を見比べ、それぞれの共通部分と	25	自分の考えをもちすいように、資料から読み取ったことで共通していること、単独の資料だけで言えることを見やすいように、蛍光ペンで下線をして、色分けするようにする。	「一つの資料独自のこと」に弁別できる。 B 弁別した理由は書けないが、自分なりの判断で「共通部分」「資料独自の部分」

独自の部分を調べ る。		<p>* それでは、ワークシートをそれぞれ見比べてみて、それぞれの資料で、「これは似ているな」「これは同じものことについて言えることだな」と思うことを、資料の共通部分として下線をして、色分けをしてみよう。</p> <p>* 「これはこの資料だけに言える大きな特徴だな」と考えることについては、さっきとは別の色で下線を引いてみよう。</p> <p>もう一度、「学び方ガイド(2)」を読み、手順の確認ができるようにする。</p> <p>チェックカードに、色分けを下理由を書かせるようにする。</p>	<p>に下線を引くことができる。</p> <p>【観察・ワークシート・チェックカード】</p> <p>読みとった内容を清書したワークシートを見比べ、共通している言葉を探し出すことで、自分なりに下線を引けるようにする。</p> <p>下線を引けたことを賞賛し、理由を考えさせ、チェックカードに書かせるようにする。</p>
4 本時のまとめをする。	2	「学び方ガイド(3)」を配り、次時までに読んでおくことを伝える。	

第8時

(1)ねらい

複数の資料を比較・吟味して、自分の意見を考えることができる。

(2)展開

学 習 活 動	時間	主な発問(＊)と指導上の留意点()	評価規準・評価方法・みとりのポイント等
1 収集した資料から読み取ったことが整理できているのかを確認し、本時の学習内容を知る。	5	<p>複数の資料を吟味した結果、「資料どうして共通する部分」「一つの資料独自の部分」が、ワークシート上に蛍光ペンで整理されてあるかの確認を促す。</p> <p>* 資料から読み取ったことが色分けできていますか。今日は、その色分けされたことから、自分の考えをまとめていきたいと思います。</p>	
2 教師の記事のまとめ方の実践例を聞く。	10	<p>教師自身も本単元に関連するように前単元であつかった「日本の自動車工業の発達」というテーマを設定し、その内容について集めた資料どうしの共通部分やそこから考えられることをまとめたものを拡大掲示し、子供の思考の参考となるように働きかける。</p> <p>教師の模範発表の内容は以下の通りである。</p> <p>用意する資料</p> <p>日本の自動車の使用台数の変化のグラフ</p> <p>日本の新車の販売台数の変化のグラフ</p> <p>日本製自動車の輸出台数の変化のグラフ</p> <p>共通の部分</p> <p>日本は戦後の1970年代以降、急速に自動車の生産台数が増え、国内だけではなく外国にも売られるようになった。</p> <p>共通の部分から考えられること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車を買うほど各家庭が裕福(収入が多く)になったのではないか。 ・ 安い自動車が発明されたのではないか。 ・ 道路が整備され、人々が車で出かけなくなったのではないか。 ・ 日本の自動車は安くて性能が良いと外国でも評判になったの 	<p>教師の発表を聞いて、複数の資料の共通部分を文章にまとめことができる。</p> <p>A 黄色い付箋に、自分の複数の資料から読み取ったことの共通している部分(左の欄の)を一つの文章に整理して書くことができる。</p> <p>教師の発表を聞いて、複数の資料の共通部分を文章にまとめようとしている。</p> <p>B 黄色い付箋に、自分の資料から読み取ったことの共通している部分を書き出すことができる。(文にならずに、単語をつなげてあるものでも良い。また、一つの文ではなく複数の文になっても良いとする。)</p> <p>【観察・付箋・ビデオ】</p> <p>どの資料とどの資料に似通ったことが書いてあるのかを考えさせる。「学び方ガイド(3)」をもとに共通する語の探し方を再度確認したり、書き方をいっし</p>

<p>3 自分の収集した資料から読み取った、共通部分や独自の部分を付箋に書き出す。また、その書き出した事象から考えられることを台紙上にまとめる。</p>	<p>ではないか。</p> <p>上の事象から考えられる理由は、この場で子供から出させても良い。</p> <p>考えた共通部分は用意された大きな黄色い付箋に書くようにする。また、何回でも書き直してできるように付箋の数は十分用意する。</p> <p>共通部分とは違う赤色の付箋には、一つの資料で独自に言える部分を記入するようにする。</p> <p>共通部分の付箋が貼られ、その事象から言えることを考えた成果が整理しやすいように、A 3 大の台紙上で考えさせる。考えた成果を授業後により多くの子供と共有できるように、その台紙を教室に掲示することを知らせる。</p> <p>それぞれの新聞のテーマについて、資料を通しての共通部分として言えること、そういう事象になったと考えられる理由は、以下の通りである。</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>...資料と資料からの共通部分。</p> <p>...共通部分から考えられること。またはその事象になった理由。</p> <p>...その他に気づいてほしいこと。</p> </div> <p>A 太平洋ベルト</p> <p>太平洋ベルト地帯には、人口・建物・交通網・工業施設が集まっている。</p> <p>太平洋側の海沿いに工業が発達しているのは、外国から原材料や燃料を船で運んでくるのに便利だし、工場ですでた製品を輸出するのに便利だから。</p> <p>海沿いは埋め立て地により、住宅や工業施設が立つ広い敷地が手に入りやすかった。</p> <p>工場が立つ条件としては、国内の交通・輸送が便利なところ、その工場で働く労働者が多い都市が近いところである。</p> <p>B 日本工業の変化</p> <p>戦前から、戦後のすぐは日本は軽工業が中心だったが、やがて機械工業を主とした重工業中心へと変わっていった。</p> <p>日本の工業は、戦前・戦後直後から高度経済成長期に時代が移る中で、貿易で国を豊かにするために、より高く売れる製品を作るようになった。</p> <p>日本はもともと原料は乏しく、それを輸入することで工業製品を輸出する加工貿易を行ってきた。</p> <p>労働者の数が減ってきているのは、現在の日本の不況が原因だと思われる。</p> <p>C 大工場と中小工場</p> <p>大工場よりも中小工場は、その数や働いている人の数は多い。</p> <p>中小工場よりも大工場のほうが、生産額や従業員への賃金は多い。</p> <p>中小工場には、他にはない独自で精密な専門技術を駆使しな</p>	<p>よに考えたりして、自分なりに共通部分を書けるようにする。</p> <p>よさを具体的に取り上げて賞賛し、共通点を一つの文章にまとめられるようにする。</p> <p>付箋に書かれた共通部分について、「なぜそう言えるのか」あるいは「その事象から言えることは何か」を推測し、自分の新聞のテーマに関する自分の考えをまとめることができる。</p> <p>A 画用紙の上に、自分が調べた共通部分について、「なぜそう言えるのか」あるいは「その事象から言えることは何か」を推測したこと(左の欄の)やその他に気づいたこと(左の欄の)を1つの文章に整理して書くことができる。</p> <p>付箋に書かれた共通部分について、「なぜそう言えるのか」あるいは「その事象から言えることは何か」を推測しようとする。</p> <p>B 画用紙の上に、自分が調べた共通部分のについて、「なぜそう言えるのか」あるいは「その事象から言えることは何か」を推測したこと(左の欄の)やその他に気づいたこと(左の欄の)を書き出すことができる。(文にならずに、単語をつなげてあるものでも良い。また、一つの文ではなく、複数の文でも良しとする。)</p> <p>【観察・画用紙・ビデオ】</p> <p>「学び方ガイド3」をもとに自分の頭に浮かぶことを言わせ、事象を確認したり、書き方をいっしょに考えたりして、自分なりに推測したことを言葉として書けるようにする。</p> <p>よさを具体的に取り上げて賞賛し、自分の考えとして、推測したことを一つの文章にまとめられるようにする。</p>
--	--	--

25

		<p>がら活躍している工場が多い。大工場を支えているのは、中小工場である。</p> <p>たくさん人が働いていて、設備もよい大工場のほうが利益は上がる。</p> <p>中小工場や大工場で作られる様々な工業製品が、国民の生活を支えている。</p>
4	まとめられた考えを、仮の新聞の記事として書き始める。 本時のまとめをし、次時の予告を聞く。	<p>5</p> <p>新聞記事として、内容が相手に伝わるように、「いつ」「だれが」「どこで」「何を」「どのようにした」等が書けているかを意識させるようにする。</p> <p>資料から読み取れたことと自分の考えの清書は新聞の用紙に直接書くのではなく、専用のマス目に入ったワークシートを用意する。そのワークシート上に清書したものを切り取り、紙面構成を考えさせてから、新聞に貼り付けることを指示する。</p> <p>次時も仮の新聞の下書きを続け、清書をするを知らせる。</p>

第9・10時

(1)ねらい

新聞のテーマに対する自分の考えを記事として文章で表すことができる。

記事と資料を取り入れて、仮の新聞を作成することができる。

(2)展開

学 習 活 動	時間	主な発問(＊)と指導上の留意点()	評価規準・評価方法・みどりのポイント等
1 資料から読み取ったことに関する自分の考えを文章で表す。	65	<p>前時に続いて台紙上にまとめた「資料どうしの共通部分」「資料独自の部分」「事象から考えられること」を、新聞の下書きとして用意されたワークシートに書かせるようにする。</p> <p>なかなか台紙上に「事象から考えられること」がまとめられない子どもには、「学び方ガイド(3)」をもとに頭に浮かぶことを言わせ、事象を確認したり、書き方をいっしょに考えたりして、自分なりに推測したことを言葉として書けるように働きかける。</p> <p>記事の中で、「資料を調べた部分」と「自分の考えの部分」の量的なバランスを意識させ、文字の大きさも考えること促す。</p> <p>仮といえども、他者に呼んでもらう新聞であることを意識させ、丁寧な字で書くことを心がけるようにする。</p>	<p>資料どうしの共通部分から推測し、資料から読み取れることと自分の考えを分けて、文章にまとめることができる。</p> <p>A「～ということがわかった」「～と考えた」「自分の考えとしては～」という表現を使い分けて、文章を書くことができる。</p> <p>資料の共通部分から推測し、自分の考えを文章にまとめることができる。</p> <p>B台紙上に書き出した事象から推測した自分の考えを、新聞記事として書くことができる。</p>
2 できあがった記事と資料を取り入れて、仮の新聞を作成する。	20	<p>*新聞に貼れるように、記事を書くことができましたか。</p> <p>用意した記事や資料は紙面構成を考えさせてから、新聞に貼り付けることを指示する。</p> <p>新聞記事の説明・補助となる資料は、読み手に伝わりやすいようにカラーコピーやカラー印刷したものを事前に用意するようにする。</p> <p>仮の新聞が完成するように、資料や記事の配置や見出しを考えさせるようにする。その時、1学期に行った新聞作りを想起するように働きかける。</p> <p>新聞タイトルは、前時までの学習を生かして、自由に考えさ</p>	<p>【観察・付箋・台紙・ワークシート】</p> <p>資料から読み取れたこと、自分で考えられたことの数(台紙上にまとめたこと全てを取り上げなくても良しとする)新聞記事としてまとめられるようにする。</p> <p>よさを具体的に取り上げて賞賛し、正式の新聞では資料から読み取れることと自分の考えをはっきり分けて書くことを意識するように働きかける。</p>

<p>3 本時のまとめをし、次時の予告を聞く。</p>	<p>5</p>	<p>せる。</p> <p>例 日本の工業を支える中小工業 等</p> <p>次時は完成した仮の新聞を発表するための準備をすることを知らせる。</p> <p>台紙上で考えさせて新聞記事を書かせたことについて、チェックカードに記入する。</p>	<p>新聞名・見出しを考え、図や表、グラフの紙面構成を考えて、仮の新聞にまとめることができる。</p> <p>A 効果的な見出しを考えることができる。</p> <p>バランスを考えた紙面構成ができる。</p> <p>新聞名・見出しを考え、図や表、グラフを取り入れて、仮の新聞にまとめることができる。</p> <p>B 見出しをつけ、紙面構成をして、仮の新聞を完成にまとめることができる。</p> <p>【観察・仮の新聞】</p> <p>自分で見出しや新聞名を考えさせ、空白の部分がないように意識させて、新聞を完成させるようにする。</p> <p>よさを具体的に取り上げて賞賛し、より読みやすくなるような改善点を考えられるようにする。</p>
-----------------------------	----------	---	--

第 11・12 時

(1)ねらい

できあがった仮の新聞をもとに、発表の準備をすることができる。

仮の新聞を発表し合うことで、知識の交流を図りながら、互いの新聞のよさに気づくことができる。

(2)展開

学 習 活 動	時間	主な発問(＊)と指導上の留意点()	評価規準・評価方法・みどりのポイント等
<p>1 できあがった仮の新聞をもとに、班内で発表できるように準備する。</p>	<p>45</p>	<p>「学び方ガイド(3)」を参考に、前回の発表の反省を踏まえて聞者がよりわかりやすいように発表の原稿を書くように働きかける。</p> <p>発表に際し、資料から読み取ったことだけでなく、「調べたことから自分で考えたこと」が発表の中心となるように働きかける。</p> <p>前回の同テーマのグループではなく、異テーマの3人一組で新たにグループを作るようにする。</p> <p>異テーマでグループを作るのは、発表を聞くことで、自分が調べていない内容についての知識を共有化するためである。</p> <p>原稿がしあがり、時間に余裕がある者は、あらかじめ他の子供の新聞を読ませ、疑問点や感想を整理させた上で、発表を聞くことができるようにする。</p>	<p>資料から読み取ったことと自分で考えたことを意識して、発表の準備することができる。</p> <p>A 発表原稿に、「～ということがわかった」「～と考えた」「自分の考えとしては～」という表現を使い、読み取ったこと自分の考えを意識して分けた表現で書くことができる。</p> <p>わかりやすい発表ができるように準備しようとしている。</p> <p>B 発表原稿に、新聞の内容が相手に伝わるように、「いつ」「だれが」「どこで」「何を」「どのようにした」を意識した表現で書くことができる。</p>
<p>2 小グループ内(新聞のテーマが異なる者3人)で、お互いの新聞を読み合ったり、発表</p>	<p>30</p>	<p>仮の新聞をグループ内で紹介・発表し合うことで、グループの中で知識の共有化を図るとともに、他の子供の見出しや紙面構成の工夫を参考にするように働きかける。</p> <p>発表時には、仮の新聞が班員に見やすいように上に掲げるようにする。</p>	<p>【観察・発表用原稿】</p> <p>内容が相手に伝わるよう、「いつ」「だれが」等を明確にした表現になるように、原稿を修正するようにする。</p>

<p>し合ったりすることで、本単元での知識の共有化を図る。</p>		<p>他の子供の新聞の良さから気づいた中で、自分の新聞に具体的に取り入れられるように、メモをとるように働きかける。</p> <p>聞いている班員がメモをとりやすいように、ゆっくりと発表できるように働きかける。</p>	<p>よさを具体的に取り上げて賞賛し、読み取ったことと自分で考えたことがわかるように原稿を修正するようにする。</p> <p>発表し合うことで、他の子供の新聞の良さに気づき、自分の新聞に取り入れることを意識できる。</p>
<p>3 本時のまとめをする。</p>	<p>15</p>	<p>他の子供の新聞の紙面構成や見出し等で参考になったことをチェックカードに書き出す。</p> <p>*他の人の発表を聞いて、自分の新聞に取り入れられることはありましたか。</p> <p>参考になったことを踏まえ、自分の新聞を具体的にどう直すかをチェックカードに書き出す。</p>	<p>A 他の子供の新聞の良さと、自分の新聞の修正点を具体的にチェックカードに記述できる。</p> <p>発表し合うことで、他の子供の新聞の良さに気づくことができる。</p> <p>B 他の子供の新聞の良さをチェックカードに記述できる。</p> <p>【発表・観察・チェックカード】</p> <p>紙面構成、見出し、文字の大きさなどで自分の新聞と他の子供の新聞の違いを指摘できるようにする。</p> <p>他の子供の新聞の良さを意識できたことを賞賛し、自分の新聞において修正すべき点を具体的に意識できるようにする。</p>

第 13 時

(1)ねらい

他の子供の新聞を参考に自分の新聞を修正し、新聞を完成することができる。

(2)展開

学 習 活 動	時間	主な発問（*）と指導上の留意点（ ）	評価規準・評価方法・みどりのポイント等
<p>1 本時の学習内容を知る。単元全体の確認をする。</p>	<p>15</p>	<p>新聞の修正をする前に、本単元全般に関わるワークシートに取り組み、知識・理解領域の確認をする。</p>	<p>自分の伝えたい内容がもっとも強調された内容に修正・整理された新聞を完成することができる。</p>
<p>2 他の子供の新聞や「学び方ガイド(4)」を参考に、自分の新聞の記事や図表、見出し、紙面構成をもう一度考え、修正し、新聞を完成する。</p>	<p>30</p>	<p>「学び方ガイド(4)」を配り、新聞を完成させる上で気をつける点を、具体的に指摘する。</p> <p>前時で書いたチェックカードを読み返し、他の子供の発表から参考になったことを振り返るように働きかける</p> <p>読みたくなるような紙面となるように、文字の部分と資料部分のバランスを意識した紙面構成となるように働きかける。</p> <p>正式な新聞なので、読みやすい丁寧な字となるように、時間をかけるように働きかける。授業時間内に仕上がらなくても良いことを伝える。</p>	<p>A 各記事の内容についての、小見出しを付けることができる。</p> <p>参考になったことをふまえて、記事の内容や見出し、紙面構成を再考し、新聞を完成することができる。</p> <p>B 仮の新聞を修正した結果が、見出しや紙面構成から、読み取ることができる。</p> <p>【観察・新聞】</p> <p>記事の内容が、「資料からよみとったこと」と「自分で考えたこと」ははっきりさせるために修正できることを考えさせるようにする。</p>
<p>3 本時のまとめをする。</p>	<p>5</p>	<p>本単元の学習過程を振り返り、新聞作りに役立った点をチェックカードにまとめるようにする。</p> <p>*今回の新聞作りをしたことで、どんなことがわかるようになったり、できるようになったりしたと思いますか。</p> <p>できあがった自分の新聞についての感想を、チェックカード</p>	<p>修正された点を具体的に取り上げて賞賛し、さらに小見出しなどで工夫でき</p>

新聞作りのための学び方ガイド(1)

これからの「考える新聞作り」のために、みなさんがどうやって調べていけばよいかのガイドを作ってみました。

1. まず、「調べる」といってもいきなり調べられるものではありませんね。自分はいったいどんなことを調べていくのかを、あるていど「見通す」ことが大切です。それは、今回の場合、どんな新聞を作るのかということにつながっていくと思います。もうすでに、自分の作る新聞のテーマは決まっていると思います。

では、頭の中で一度、「こんな感じの新聞ができるのかな～」とか「こういう資料があればいいのかな～」とイメージしてみることが大切だと思います。時間をとりますので、少し頭の中でイメージしてみましよう。……

どうでしょうか。できましたか。できた人もいれば、できない人もいるかもしれません。イメージできた人は、そのイメージしたことをこの下に書き出してみましよう。

もちろん、まだこの段階ではまったくイメージできなくてもしかたがないと思います。イメージするときに新聞に必要なだと思える「キーワード」を考えてみると良いかもしれません。それは今回新聞の3つのテーマに関わると思います。自分のテーマに関する言葉を考えてもいいかもしれません。

では、イメージしてみたことを自由に書いてみましよう。



略

2. 見通すこと(イメージすること)をしてみたら、次はそれをもとにして、実際に資料を集めていきたいと思います。ただ、今回の新聞作りで、注意してもらいたいと思うことは、自分のテーマに関係することで必ず3つ以上の複数の資料を見つけてほしいということです。なぜなら、一つの資料だけでは、なかなか自分の考えを表すことが難しいと思うからです。

この時に大切なことは、早く資料がほしくてあまり考えずに、いきなり図書室に行かないことです。まず、みなさんがもっているものを大切にしましよう。それは、**教科書・資料集・地図帳**です。この3つをよーく、ていねいに見直しましよう。そして、「この資料は使えるんじゃないのかな?」「これどうだろう?」と考えてみて下さい。それでも、「もっといい資料があるんじゃないのか?もっと見つけてみたい。」と思えたら、図書室やパソコン室へ行ってみましよう。

その資料とは、やはり図や表やグラフ、地図が多くなると思います。もし、資料があって、「これは使えるだろうか?心配だな。」と思ったら、すぐに先生や図書室の先生に相談してみてください。資料が手に入ったら、必ずその部分をコピーするようにしましよう。その資料のコピーは、用意された「新聞作りのための資料プリント」にはっていきましよう。下の図のようにして下さい。

資料をはる

略

資料から読み取ったことを、書き出す。

3. せっかく調べた資料がなくなってしまうたり、汚れてしまったりは元も子もありません。こちらのほうでクリアファイルを用意したので、この「新聞作りのための学び方ガイド(1)」からクリアファイルに入れて、自分の机の中に入れておきましょう。基本的にこのファイルは持ち帰らないようにしましょう。(忘れ物がないようにしたいのです。)どうしても、家で調べを進めたいと思う人はそうだんしてみてください。

最後につけ加えます。みなさんの今回の新聞は、資料を見つけることももちろん大切なことですが、それと同じくらいに見つけた資料から、「どんなことが言えるのかを考えること」が大切です。それを忘れないでいてほしいと思います。

新聞作りのための学び方ガイド(2)

「新聞作りのための学び方ガイド(1)」に引き続き、みなさんがどうやって新聞を作っていけばよいかのガイドを作りました。よく読んで下さい。

1. 前回までの授業で、ほとんどの人が資料を手に入れ、その部分をコピーしたと思います。早い人は、その資料から「どんなことが言えるのか」「どんなことが読み取れるのか」までできましたね。今日は、全員の人がこれを終わりにしたいと思います。

早い人は、それぞれの資料の中に出てくる難しい言葉の意味を調べておくとよいでしょう。

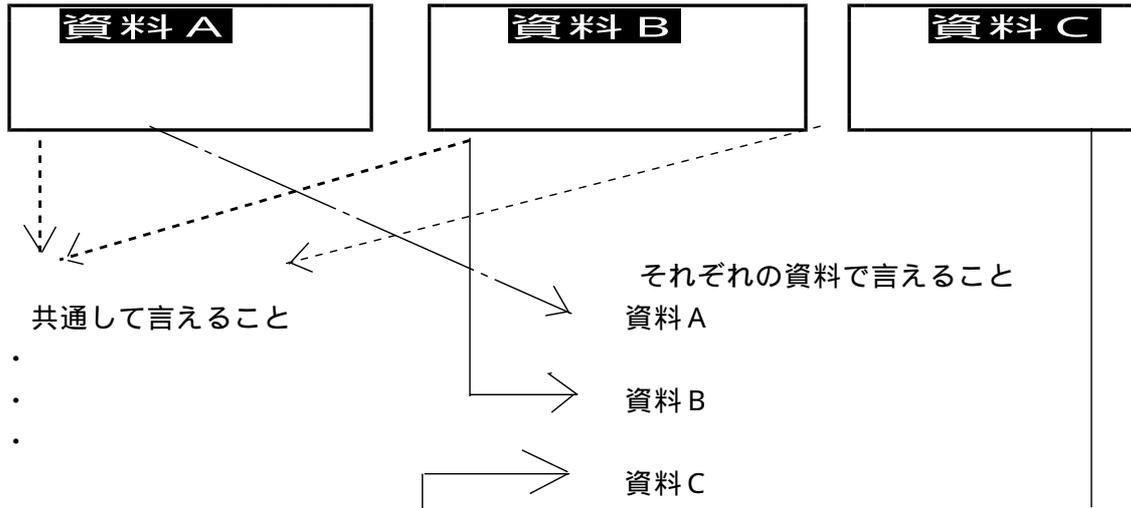
2. 次回の授業からは、同じ新聞のテーマの人(8~9人)で班を作ってもらいます。そして、それぞれが、どの程度まで進んだのか発表してもらいたいと思います。発表しかたは、次の文章を参考にして話してもらえるとよいでしょう。

これから、 の中間発表を始めます。私は、新聞のテーマを「」として、資料を見つけました。今のところ、「」や「」や「」という 枚の資料が見つかりました。
の資料からは、「」や「」といったことがいえると思います。
の資料からは、「」や「」や「」といったことがいえると思います。
の資料からは、「」や「」や「」といったことがいえると思います。
ここまでが、私の調べたことです。この後は、この資料から言えることをもう少しを整理していきたい思います。以上です。

このように、あいているところに、どんな言葉が入るのかを考えながら、次回の練習を試してみてください。下に発表の下書きをしてみましょう。

略

3. 発表が終わったら、他の人の発表を参考にして「新聞作りのための資料プリント」を、もう一度作り直したいと思います。今度は、白黒のコピーではなく、先生の方でカラーで印刷したものを用意しますので、配られたらその資料をていねいに切り取ってはり、資料から言えることを、きれいな字で清書しておきましょう。
4. 資料から言えることがまとまったら、次にその資料の中身をよく調べてみることをします。以下の図を見て下さい。



上の図は3つの資料を比べながら調べている図です。みなさんが見つけた資料の中身について、「3つとも、あるいは2つに共通していること」「それぞれの資料だからこそ言えること」に分けてみてほしいと思います。そして、それぞれの資料のコピーに色のちがう蛍光ペンで色分けをしたいと思います。(そのため、10月30日(木)の授業には、自分で2色以上のペンを用意しておきましょう。)

この色分けができたなら、大きな付箋に「共通して言えること」「それぞれの資料で独自に言えること」を書き出します。付箋に書くのは、来週の授業になると思います。

5. 「共通して言えること」「それぞれの資料で独自に言えること」に色分けができたなら次にいよいよ「新聞のテーマで調べた資料について自分としての考え」を考えることをします。これについては、来週の火曜日、11月4日に行います。

*この下には、みなさんがそれぞれ集めた資料に出てくる、難しい言葉の意味を調べて、それを、書き出しておくといでしょう。

新聞作りのための学び方ガイド(3)

「新聞作りのための学び方ガイド(2)」に引き続き、みなさんがどうやって新聞を作っていけばよいかのガイドを作りました。

1. 前回までの授業で、ほとんどの人が資料の清書が終わり、資料どうしから言えることで共通していそうなところを考えて、蛍光ペンで下線を引いてもらいました。

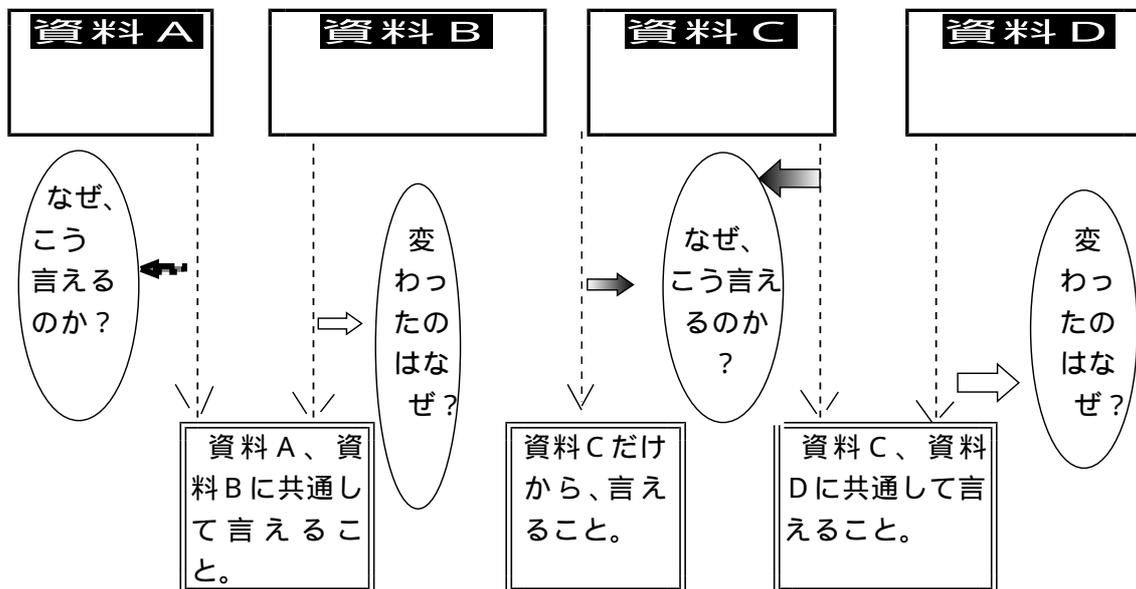
ここで、もう一度確認しますが、共通していそうなところというのは、やはり同じ言

葉が出ててくるところだと思います。例えば、「太平洋ベルト」だとか「中小工場」だとかその文章が何について書かれているのかをはっきりすることで、「資料A」と「資料B」の共通することがはっきりするのです。

11月4日の授業では、私が仮に新聞をつくるとして、見本としての発表をしたいと思います。その発表をよく聞いて、自分の考えることの参考にしてください。

2. 「資料から共通して言えること」と「それぞれの資料で独自に言えること」がまとまったら、次にどうしてそういうことが言えるようになったのかを考えてもらいます。これが肝心なところです。みなさんに推理してもらうわけですから、頭の中にシワが増えるように、いろいろと考えて見て下さい。考えることにチャレンジすることが大切です。「わからない。」「だれかに教えてもらおう」と思っていたら、ちっともみなさんに考える力がつきません。「ガイド(1)」にも書きましたが、今回の新聞は「どんなことが言えるのか」を考えることが大切なのです。

以下の図を見て下さい。



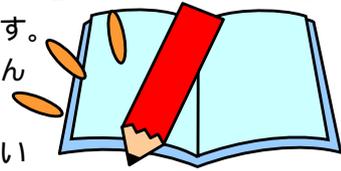
上の図のように、今度は図の中のたてに長い丸のところを考えてもらいます。「なぜ?」「どうして?」といった理由を考えるわけです。ここは、予想(推理)するわけですから、みなさんがどれだけ、頭の中で「こうなんじゃないかな」と考えられるかだと思います。(もしかしたら、こういう方が得意だという人もいるかもしれませんが。)でも、いい加減なことを思いつくのではなく、ある程度その考えたことが他の自分以外の人でも納得するような内容でなくてはいいけませんよね。(ここが難しいところです。)だから、自分の考えがまとまったら、そう自分が考えた理由もあわせて言えるようにしておくともいいかもしれません。

3. 私の発表を聞いてもらったら、実際に活動にうつってもらいます。まず、共通点は配られる大きな黄色の付箋に書いてみて下さい。なかなか難しいですから、何度も書き直しができるようにこの付箋はたくさん用意しました。また、共通点ではないけれど、一つの資料から言えて、きっとこれは大切なことになりそうだという資料独自のことには赤い付箋に書いてみて下さい。付箋に書けたら、先生のところに持ってきてください。確認します。付箋が完成したら、みんなの資料がセロテープで貼られた画用紙に貼って下さい。そして図のように、なが丸や点線をその紙に書きます。そして、自分の考えです。「共通点からどんなことが言えるのか」「そうに変わってしまった理由はなぜか」「独自

なことからどんなことが言えるのか」を直接、画用紙に書いてみて下さい。ただし、これも何度も書き直しができるようにしたいので、あまり濃く書かないようにしましょう。ある程度、画用紙の中に書き込めたなら、これもまた私のところに見せに来て下さい。ここはみなさんの新聞の中心になる場所ですから、たくさん書いておいた方がいいと思います。大切なことは「間違ってもいい、自分は前に進むのだ。」と思えることではないでしょうか。難しいことをしているわけですから、「最初から素晴らしい答えなんて見つからない、でも自分の力を伸ばすためにがんばろう。」と思えるとよいですね。

4. 画用紙が自分の考えでうまりましたら、別の紙をわたします。

これは、仮の新聞になるものですから、自分の仮の新聞がどんなふうになるのか、まず頭の中でイメージしてから書き出した方がいいと思います。新聞ですから縦書きが基本的にはいいですね。そして、新聞記事として内容が相手に伝わるように文章を書かなくてはなりません。(国語の授業のパンフレット作りで勉強しましたね。)



「いつ」「だれが」「どこで」「何を」「なぜ」「どのようにした」ということが、はっきりするような文章にしましょう。そして、その紙に書いたものを切り取って新聞にします。くれぐれも自分の中で、一番ていねいな字になるようにがんばって書いてみて下さい。

5. 仮の新聞が完成したら、仮の新聞をもとに発表をしてもらいます。以前の発表と同じように、原稿を書いてもらえるとよいでしょう。

例

これから、新聞テーマ「」の本発表を始めます。
私は資料を見つける努力をして、「」や「」や「」という 枚の資料が見つかりました。
資料からの共通点としては、「」といったことがいえると思います。その共通点から、私は「」といったことを考えました。
また、「」の資料だけから、独自のこととして「」といったことがいえるかと思います。そのことから、「」といったことを考えました。
以上が、私の調べたことと考えたことです。この後は、資料を再び整理して、新聞を完成したいと思います。以上です。

このように、あいているところに、どんな言葉が入るのかを考えながら、練習をしてみてください。下に発表の下書きを簡単にしてみましょう。

新聞作りのための学び方ガイド(4)

いよいよ清書です。最後の新聞作りのガイドとなりました。よく読んでみてください。

1. これを読んでいる人は、もう仮の新聞の発表が終わったわけですね。あとは、自分が調べて考えたことを、いかにわかりやすく他の人に知ってもらおうかだとおもいます。それには、以下のようなことに気をつけていくけるとよいでしょう。

(1)文字について

当然、文字の大きさはポイントですね。見出しになる場所は、ほかの文字よりも大きくしましょう。また、自分が特に強調したいところは字の色を変えるべきだと思います。

す。それに文字の下にアンダーラインをしたり、文字を四角でかこむのもよいかもしれません。

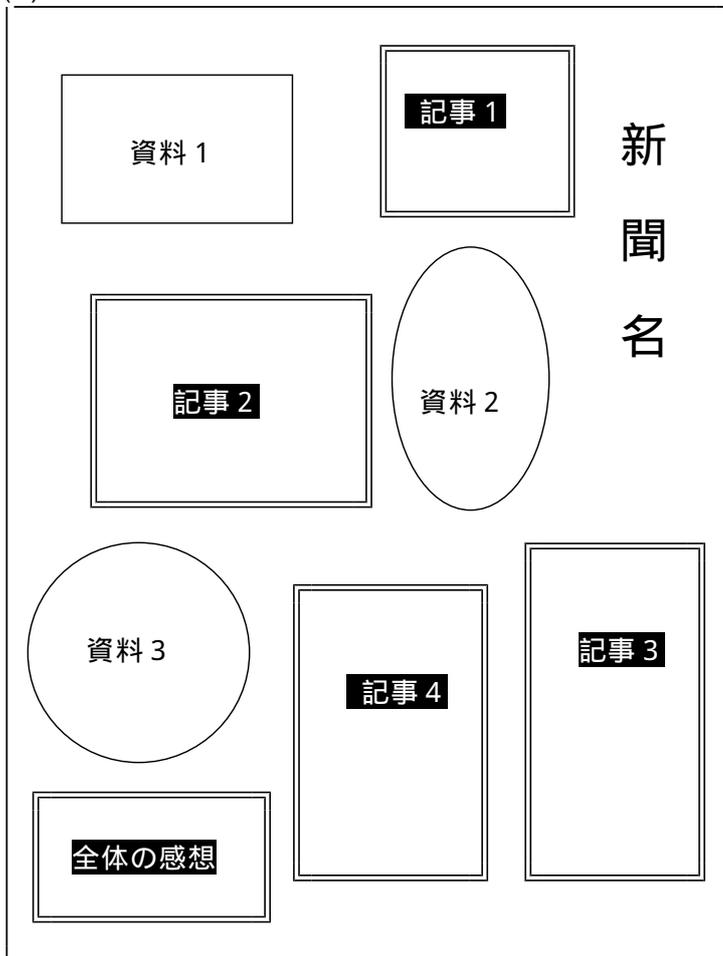
また、字体を変えるために、見出しや新聞名だけは、自分以外の人に書いてもらうというのも一つの方法かもしれません。大切なことは、書き方の時間のように、一字一字、字をじっくりとていねいに書くことだと思います。また、この時に変だと思った言葉遣いは直せるようにしましょう。もし、自信がないようでしたら、先生が仮の新聞に赤ペンを入れて、直しますから、そうしてほしい人は言ってください。

ただし、これは書き方だけです。内容は、みなさん自身の新聞だから、この段階ではもうあまり内容をいじることはしません。

(2)見出しについて

見出しは短い言葉ですが、新聞に書かれている内容を、ぎゅっと縮めた言葉です。だから、あんまり長い言葉では意味がありません。良い見出しをつくるには、すべてのレイアウトが決まってから、一度新聞を読み返して、最後に見出しをつけるのがよいでしょう。

(3)全体の紙面について



例えば、左が見本です。こんなふうになると、読みやすくなるかもしれません。

(4)その他

あと大切なことは、記事と記事のさかいめをしっかりとわけることだと思います。せっかく、マス目がある紙で、仕上げるわけですから、字と字の間をしっかりとって、よい新聞にしましょう。

また、新聞名の横には、副題がつくとよいかもしれませんね。

それでは、締め切りがまもれるように計画的に新聞の清書を進められるようにしましょう。